

平成 21 年 1 月

杉原誉明 学位論文審査要旨

主 査 山 田 一 夫
副主査 林 一 彦
同 村 脇 義 和

主論文

Extracellular matrix metabolism-related gene expression in bile duct ligation rats

(胆管結紮ラットでの細胞外マトリックス代謝関連遺伝子の発現)

(著者：杉原誉明、孝田雅彦、的野智光、前田和範、山本了、植木賢、村脇義和)

平成21年 Molecular Medicine Reports 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は胆管結紮ラットを用いて、胆管結紮後42日間の長期にわたり肝臓における細胞外マトリックス代謝関連の遺伝子発現を経時的に検討したものである。その結果、胆管結紮後42日では肝硬変に進展しており、TGF- β 1、CTGFとともにCollagen-Iの遺伝子発現が増加すること、一方、MMP-13、MMP-2の発現減少、TIMP-1の発現増加が認められることが判明した。本論文の内容は、胆管結紮ラット肝では線維化促進系サイトカインの上昇とともにコラーゲン合成系が増加し、これと相反して分解系が抑制され、肝線維化が効率よく進行することを示唆するものであり、明らかに肝臓病態生理学の学術水準を高めたものと認める。